

「竹取物語」「枕草子」「源氏物語」「徒然草」
「おくのほそ道」「雨月物語」「東海道中膝栗毛」…

古典文学書き出し結び総覧

日外アソシエーツ 編 石黒吉次郎 (専修大学文学部教授) 監修

A5・2分冊 定価 (本体5,700円+税) ISBN978-4-8169-1501-7 1998年7月刊行

●日本の古典文学に関心を寄せるすべての読者に

- ◇日本の代表的な古典文学作品 (上代から近世までの散文作品) の書き出し・結びの原文が一覧できる事典です。
- ◇上巻には物語・近世小説、下巻には日記・紀行・随筆・戯曲など、あわせて189作品から、301の書き出し、結び (章段の書き出しも含む) を収録しました。
- ◇すべての原文に作品理解のための脚注を付けました。
- ◇各巻末に「作品・書名索引」のほか、書き出しの冒頭の語句から原文が探し出せる「書き出し索引」付き。
- ◇古典を専門に学んでいる学生だけではなく、古典に関心をもち、気軽に原文に触れてみたいと考えている人々に好適の書。

【内容見本】

竹取物語

《書き出し》

いまは昔竹取の翁といふもの有けり。野山にまじりて竹を取りつ、よろづの事に使ひけり。名をば、さかきの造となむいひける。

その竹の中に、もと光る竹なむひと筋ありける。あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてあたり。翁言ふやう、

「我が朝ごと夕ごとに見る竹の中におはするにて知りぬ、子になり給べき人なり」とて、手にうち入れて家へ持ちて来ぬ。妻の女にあづけてやしなはず。うつくしき事がぎりなし。いとおさなければ、籠に入れてやしなふ。

《結び》

申す、人々ひき具して帰りまいりて、かぐや姫を、え戦ひ留めず成ぬる事、こまくと奏す。葉の壺に、御文そへてまいらす。ひろげて御覧じて、いといたくあはれがらせ給て、物もきこしめさず、御あそびなどもなかりけり。大臣・上達部をめでして、

たけとりものがたり

〔成立〕平安時代前期

〔作者〕不詳

〔別名〕竹取の翁の物語へたり、かぐや姫の物語へたり、かぐやひめのものがたり

◆一巻。物語の祖とされる。竹取の翁が竹の中から得て育てた美女かぐや姫が、貴公子五人の熱心な求婚を難題を出すことで断り、帝のお召しにも応じないで、月の世界に帰る。

★《書き出し》かぐや姫の生い立ちとして、さかきの造が姫を竹の中から見つけたいきさつが語られる。

★《結び》富士山の噴煙の由来が語られる。帝が姫から渡された不死の薬の壺を、富士の山に持っていき、頂上で燃やしたからだという。

2017.8

お問い合わせは… 日外アソシエーツ 営業局

TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845
〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <http://www.nichigai.co.jp/>

■貴店名	古典文学書き出し結び総覧	冊
	定価 (本体5,700円+税) ISBN978-4-8169-1501-7	
注文書	■お名前	